



令和3年度
全国体力・運動能力、運動習慣等調査

大仙市分析結果

令和4年2月18日

I 実施状況

1 調査の目的

- (1) 子どもの体力の状況を把握・分析することにより、体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、改善を図る。
- (2) 子どもの体力の向上に係る施策と課題を把握し、体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 子どもの体力や運動習慣、生活習慣を把握し、各学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査の対象とする児童生徒

国・公・私立学校の小学校第5学年と中学校第2学年の全児童生徒

全国小学校	19,213校	秋田県小学校	191校
全国中学校	10,153校	秋田県中学校	121校

3 調査事項

(1) 児童生徒に対する調査

①実技に関する調査

- ・小学校8種目…握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ
- ・中学校8種目…握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走（男子1500m、女子1000m）又は20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ

※中学校については、持久走と20mシャトルランのどちらかを選択して実施

②質問紙調査

- ・運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

(2) 学校に対する質問紙調査

- ・子どもの体力の向上に係る取組等に関する質問紙調査

(3) 教育委員会に対する質問紙調査

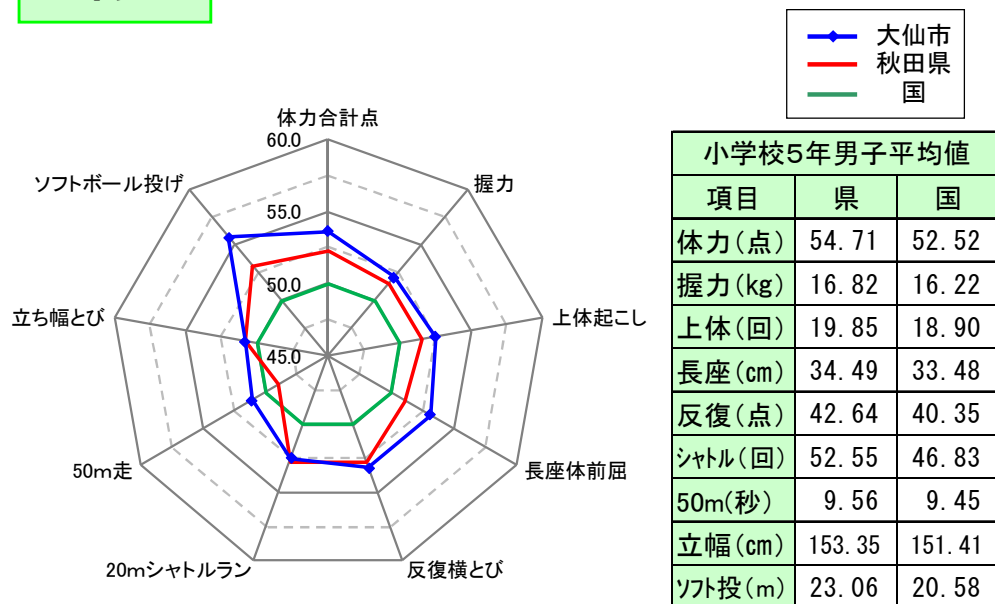
- ・子どもの体力の向上に係る施策等に関する質問紙調査

Ⅱ 体力・運動能力調査の結果

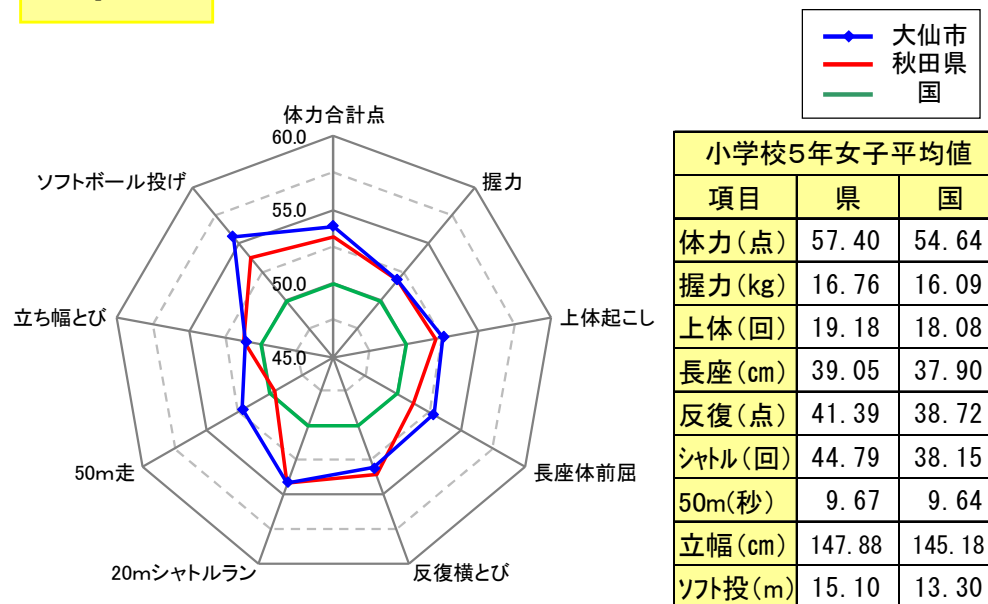
1 小学校の状況

※グラフは各種目、体力合計点を全国平均を50として比較（T得点）
（体力合計点：実技の数値を得点化し合計したもの）

5年男子



5年女子



○男子は、体力合計点及び20mシャトルランを除く7種目において国や県の平均を上回っている。20mシャトルランは、県の平均を下回っているが、ほぼ同程度である。

○女子は、体力合計点及び8種目中全ての種目において、国の平均を上回っている。また、5種目は県の平均も上回っている。反復横跳び、20mシャトルラン、立ち幅とびは、県の平均を下回っているが、ほぼ同程度である。

○総合評価「A」の児童の割合は、男女共に国や県を上回っている。

○総合評価「D、E」の下位層の割合の合計は、男女共に国や県より少ない。

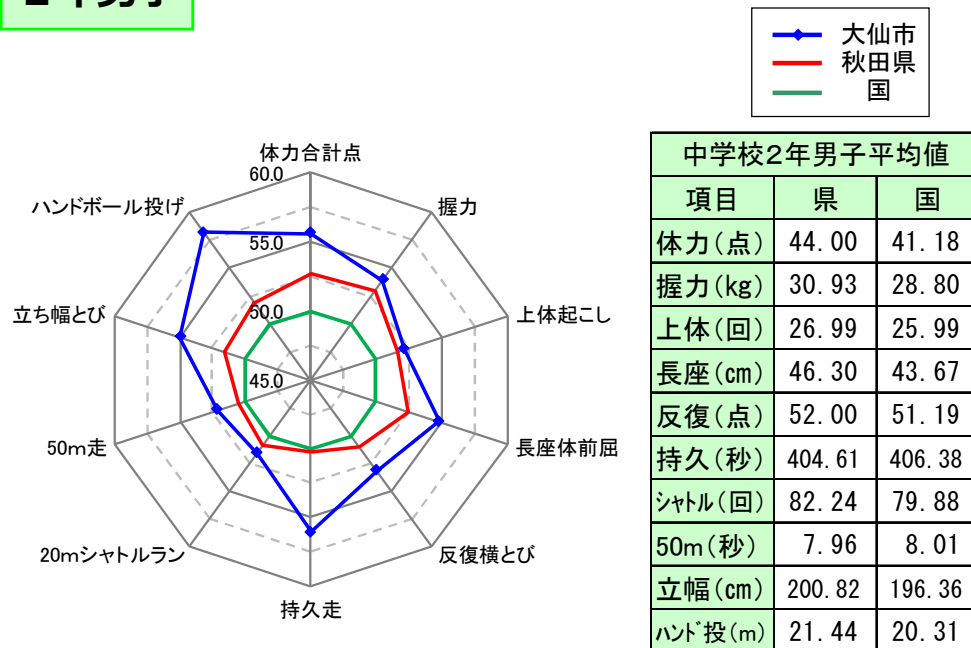
※総合評価…体力テストの合計得点の良い方からABCDEの5段階で評定した評価

Ⅱ 体力・運動能力調査の結果

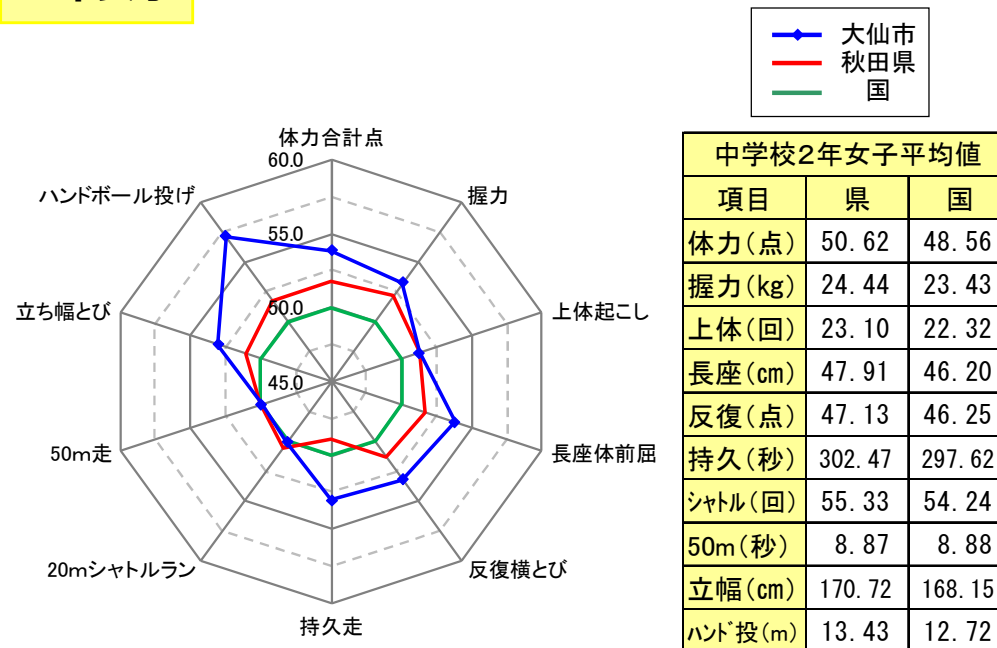
2 中学校の状況

※グラフは各種目、体力合計点を全国平均を50として比較（T得点）
（体力合計点：実技の数値を得点化し合計したもの）

2年男子



2年女子



- 男子は、体力合計点及び9種目中全ての種目で国や県の平均を上回っている。
 - 女子は、体力合計点及び9種目中全ての種目で国の平均と同程度または上回っている。6種目は県の平均も上回っている。上体起こし、50m走は同程度、20mシャトルランは、県の平均を1回程度下回っている。
 - 総合評価「A」の生徒の割合は、男女共に国や県を上回っている。
 - 総合評価「D、E」の下位層の割合の合計は、男女共に国や県より少ない。
- ※総合評価…体力テストの合計得点の良い方からA B C D Eの5段階で評定した評価

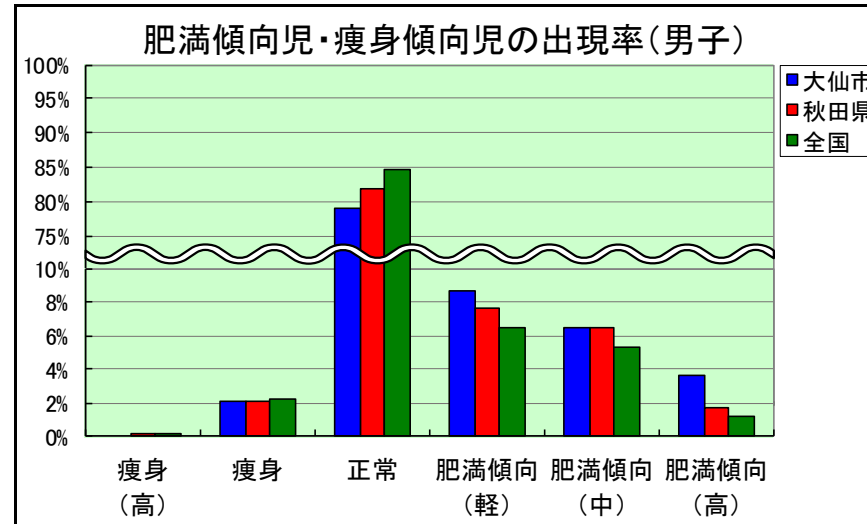
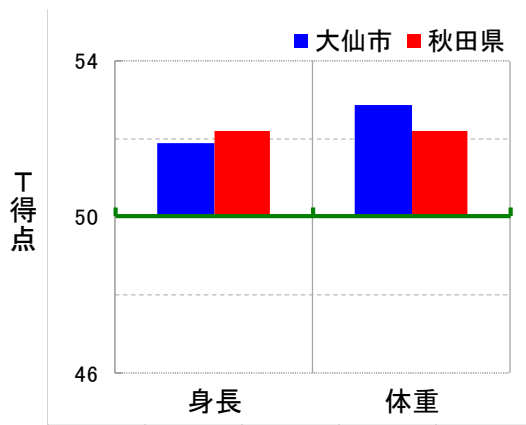
Ⅲ 体格調査の結果

1 小学校の状況

身長と体重のT得点のグラフ

※ T得点（全国平均値を50としたときの偏差値）

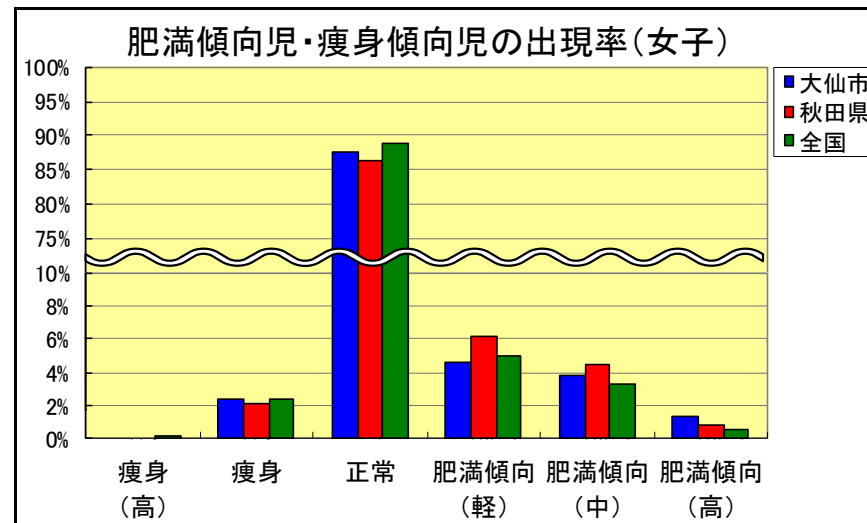
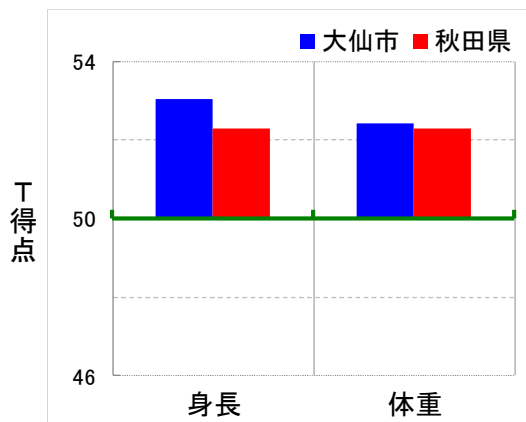
5年男子



○小学校5年男子

- ・身長は1.9%、体重は2.9%全国を上回っている。
- ・痩身・肥満傾向出現率において、全国より「正常」が5.5%少なく、「軽度肥満」が2.2%、「中度肥満」が1.2%、「高度肥満」が2.3%多い。

5年女子



○小学校5年女子

- ・身長は3.1%、体重は2.4%全国を上回っている。
- ・痩身・肥満傾向出現率において、全国より「正常」が1.0%、「軽度肥満」が0.4%少なく、「中度肥満」が0.6%、「高度肥満」が0.8%多い。

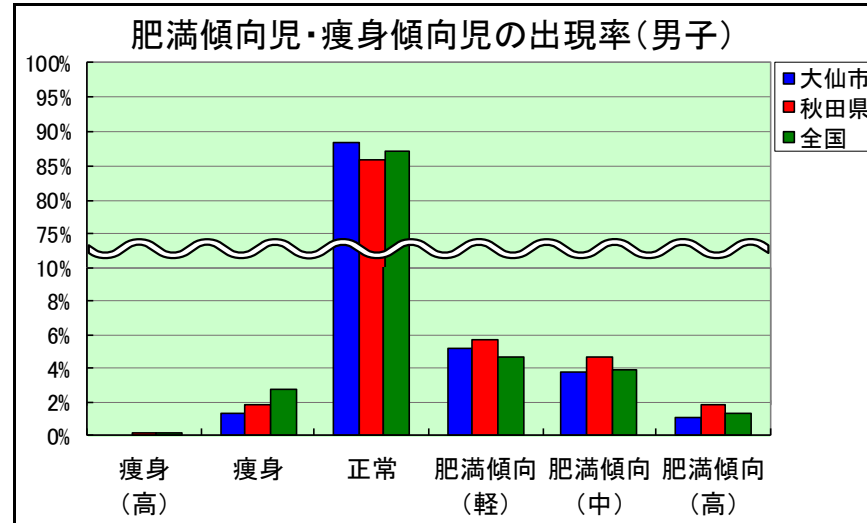
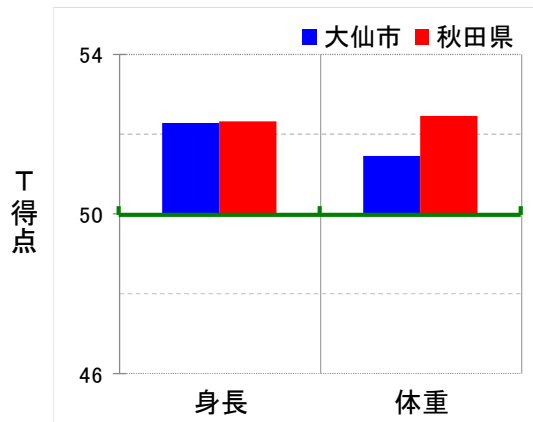
Ⅲ 体格調査の結果

2 中学校の状況

身長と体重のT得点のグラフ

※ T得点（全国平均値を50としたときの偏差値）

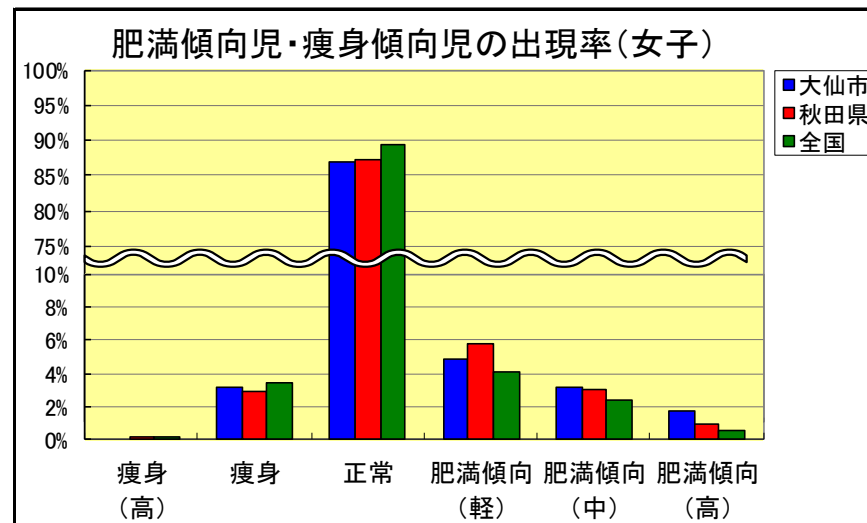
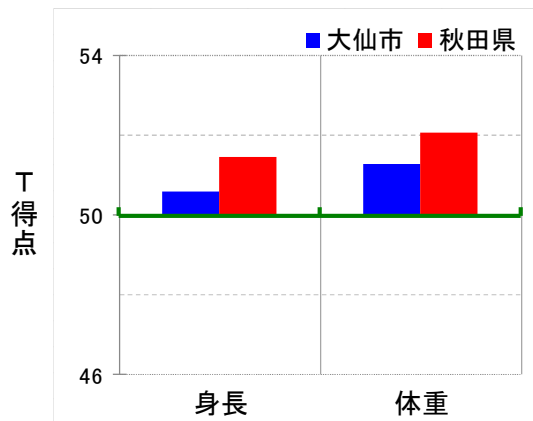
2年男子



○中学校2年男子

- ・身長は2.3㊦、体重は約1.5㊦全国を上回っている。
- ・痩身・肥満傾向出現率において、全国より「正常」が1.5㊦、「軽度肥満」が0.5㊦多く、「中度肥満」が0.1㊦、「高度肥満」が0.3㊦少ない。

2年女子



○中学校2年女子

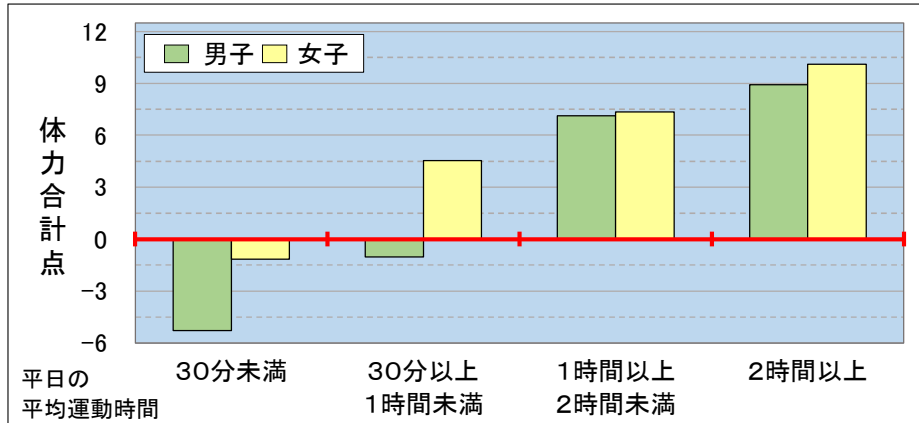
- ・身長は1.6㊦、体重は1.3㊦全国を上回っている。
- ・痩身・肥満傾向出現率において、全国より「正常」が2.3㊦少なく、「軽度肥満」は0.8㊦、「中度肥満」は0.8㊦、「高度肥満」は1.2㊦多い。

IV 運動習慣、体格と体力との関連

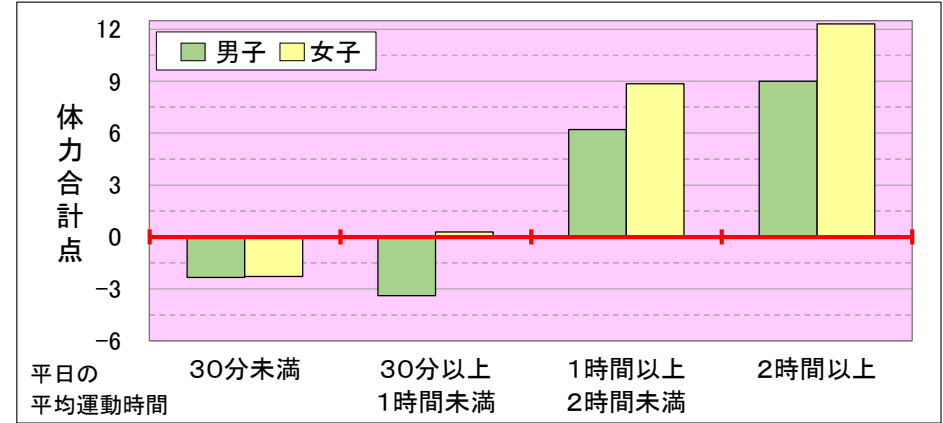
① 平日の平均運動時間と体力との関連

Q 学校や学校外で1日の運動やスポーツをしている時間を合計するとおおよそどのくらいしていますか（学校の体育の授業を除く）※5日間の平均

大仙市 小学校5年生



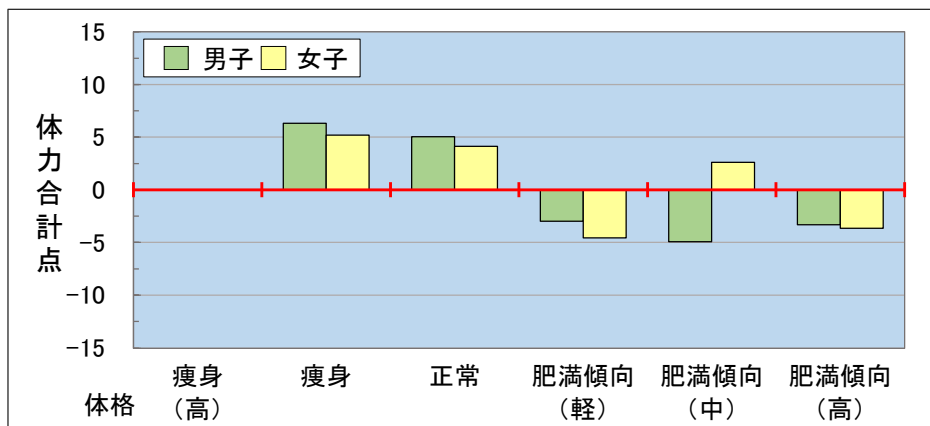
大仙市 中学校2年生



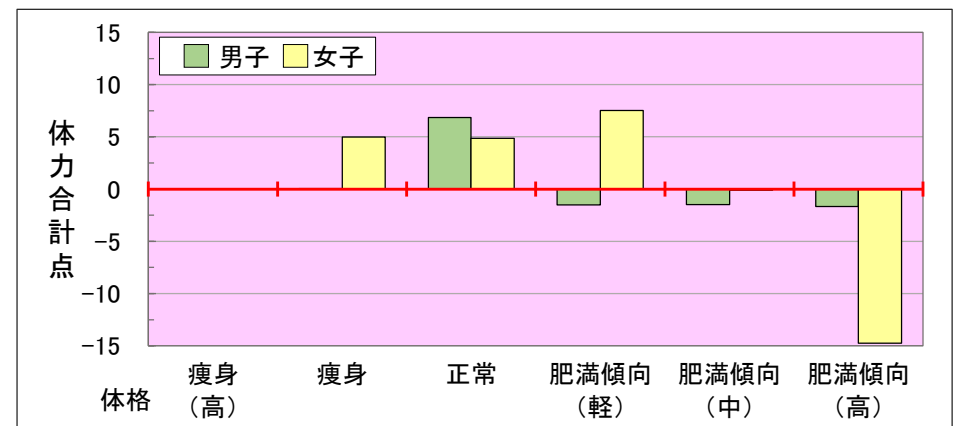
② 痩身・肥満傾向と体力との関連

高度痩身	痩身	正常	軽度肥満	中程度肥満	高度肥満
-30%以下	-29.9 ~ -20%	-19.9 ~ 19.9%	20 ~ 29.9%	30 ~ 49.9%	50%以上

大仙市 小学校5年生



大仙市 中学校2年生

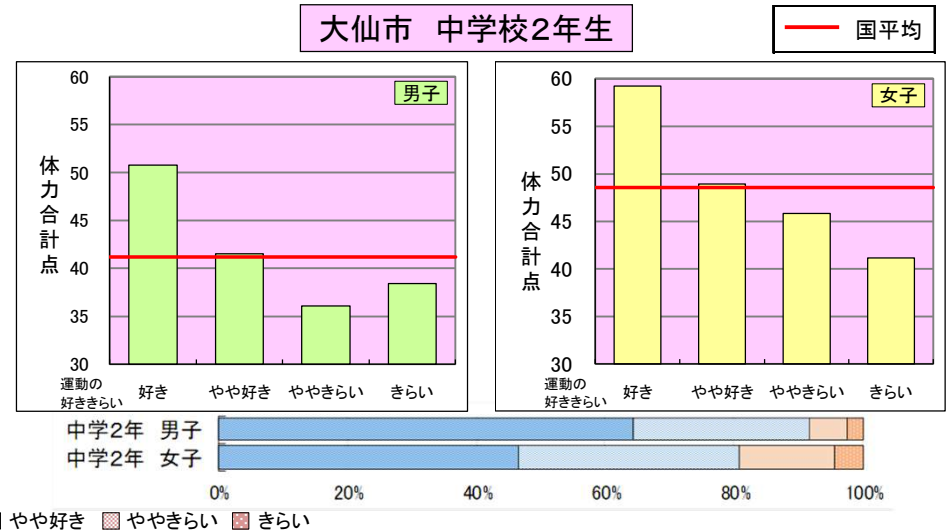
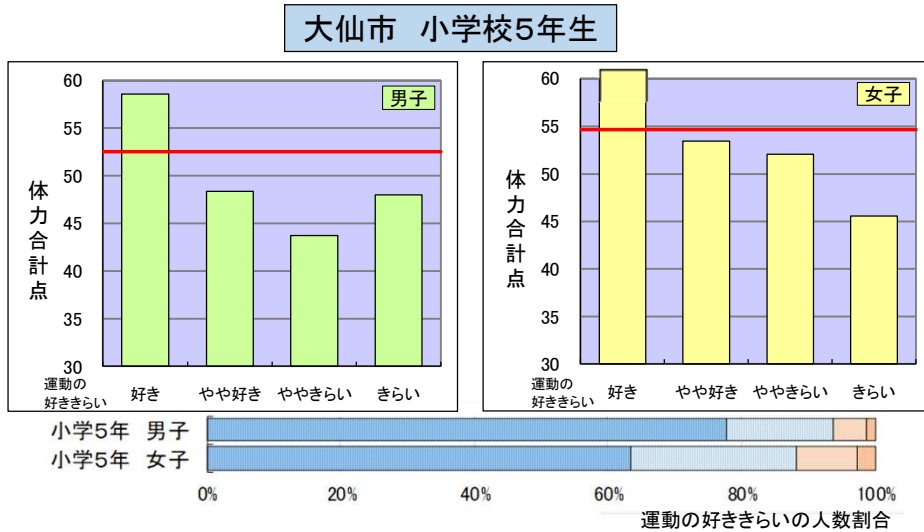


○児童生徒の体力については、運動習慣や体格との関連が大きい。

V 運動、スポーツに関する意識と体力との関連

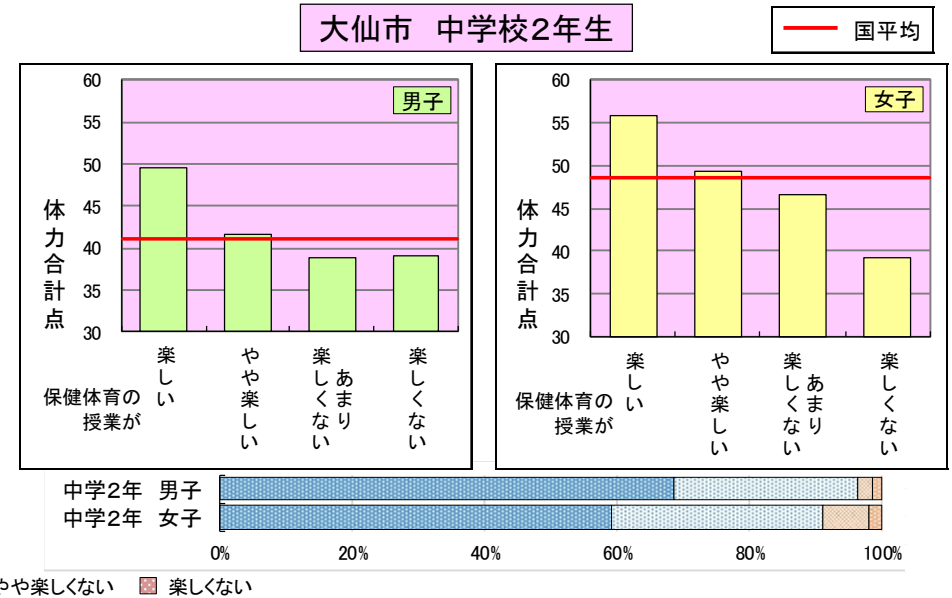
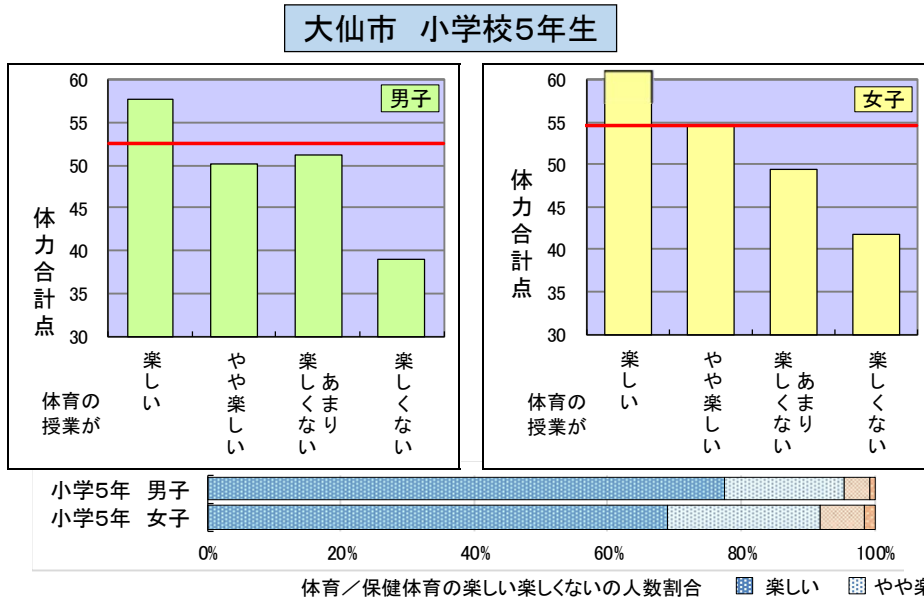
①運動が好きな児童生徒と体力との関連

Q 運動やスポーツをすることは好きですか



②体育の授業が楽しい児童生徒と体力との関連

Q 体育／保健体育の授業は楽しいですか



運動やスポーツが好き、体育の授業が楽しいと答えている児童生徒の体力合計点が高く、全国平均を上回る傾向がある。

V 運動、スポーツに関する意識と体力との関連

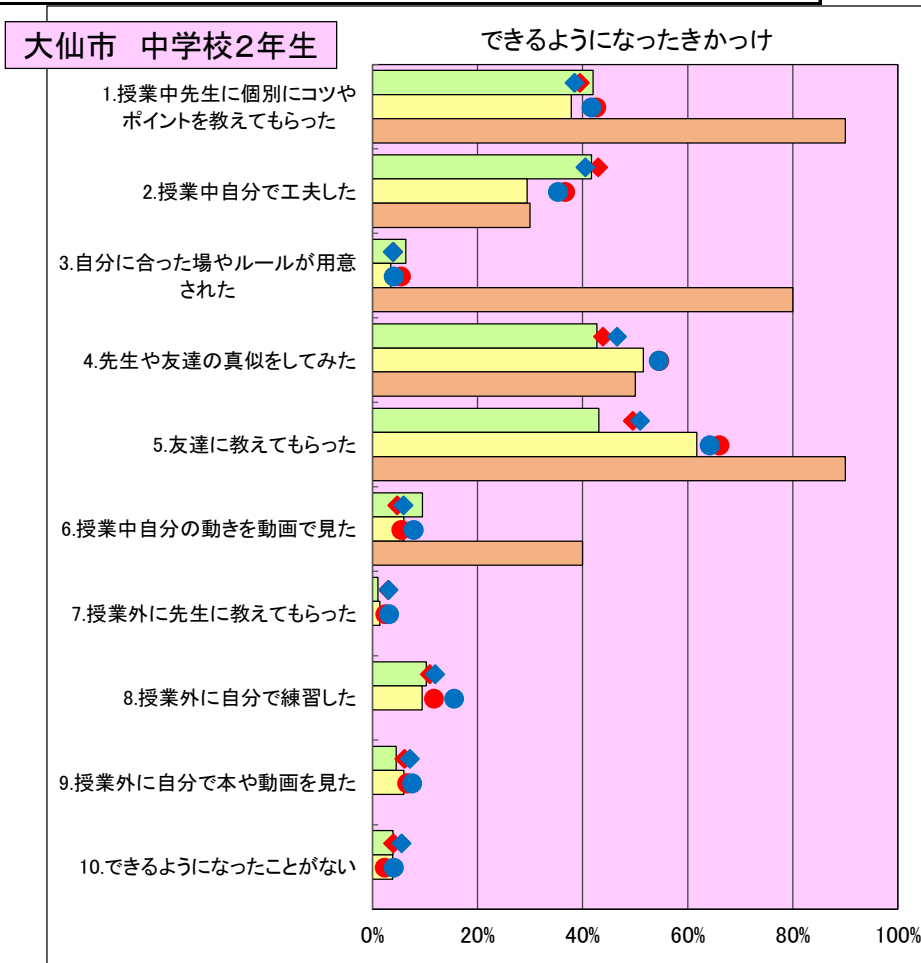
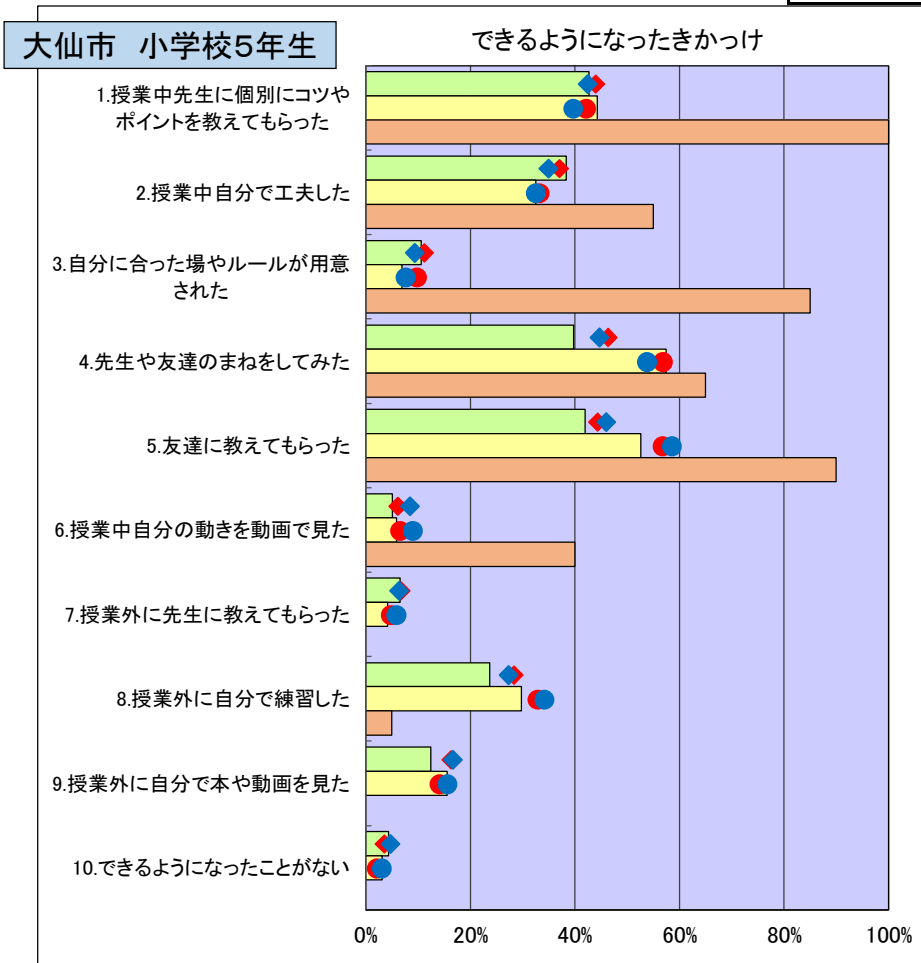
③児童生徒が「できなかったことができるようになった」きっかけと学校の取組内容との関連

Q「できなかったことができるようになった」きっかけはどのようなものがありましたか（児童生徒質問紙：複数回答）

Q努力を要する児童生徒にどのような取組をしていますか（学校質問紙：複数回答）

各選択肢を選んだ児童生徒及び学校の割合

■市 男子 ■市 女子 ■学校質問紙 ◆県 男子 ●県 女子 ◆国 男子 ●国 女子



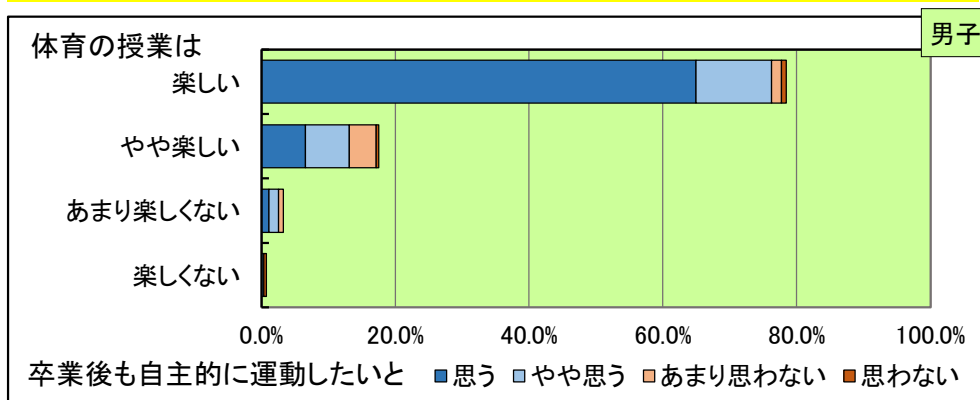
○小・中学校男女共に、「友達に教えてもらった」「先生や友達のまねをしてみた」の割合が多く、全国や県と同じような傾向が見られる。ただし、児童生徒と学校側にずれが見られる回答もあり、特に「自分に合った場やルールが用意された」「授業中に自分の動きを動画で見た」の質問で差が大きい。

V 運動、スポーツに関する意識と体力との関連

④ 体育の授業の楽しさと、卒業後も自主的に運動やスポーツをしようとする意欲との関連

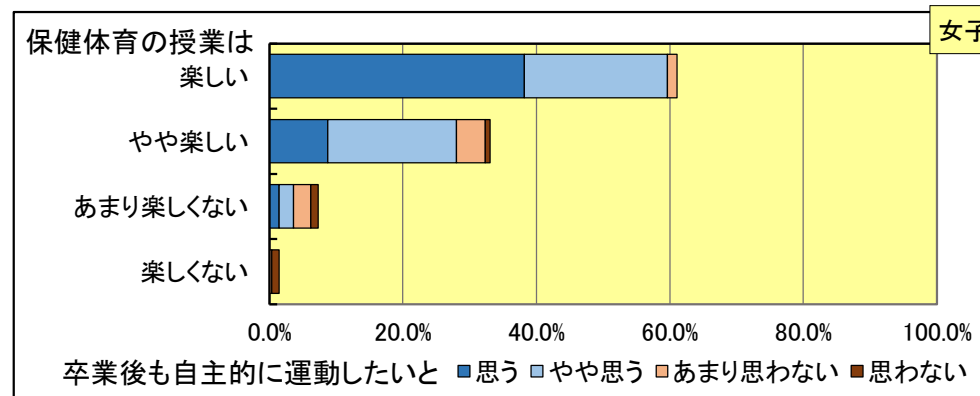
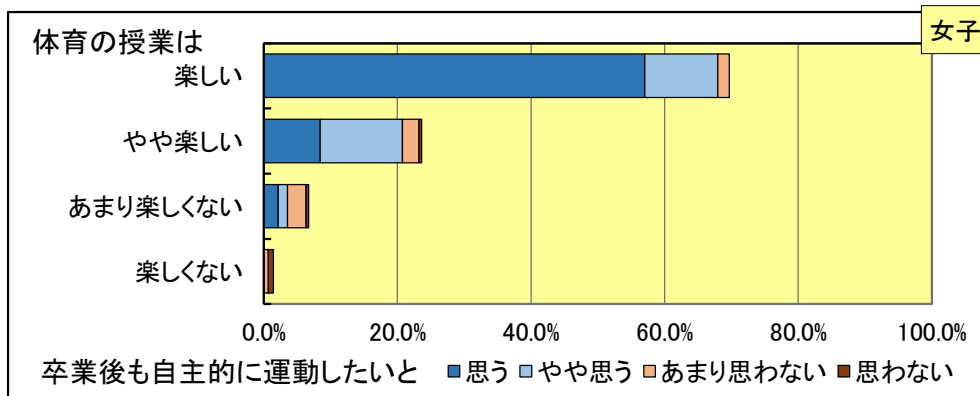
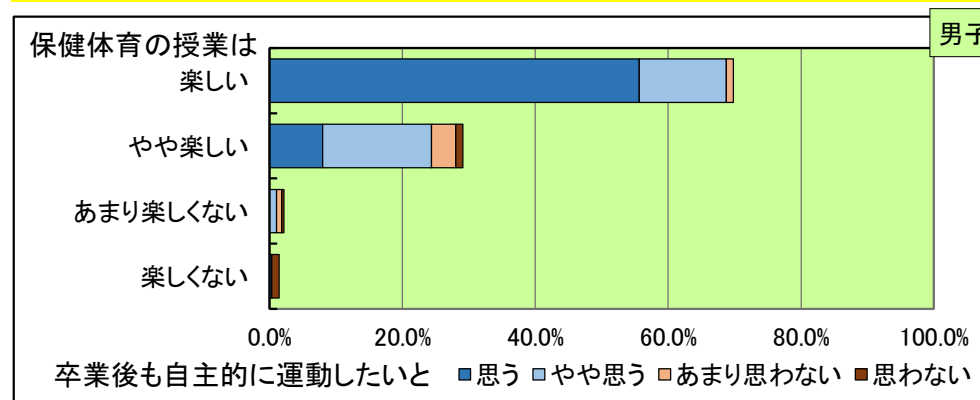
大仙市 小学校5年生

- Q 体育の授業は楽しいですか
Q 中学校でも、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいですか



大仙市 中学校2年生

- Q 保健体育の授業は楽しいですか
Q 中学校卒業後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいですか



○小・中学生の男女共に、体育の授業が「楽しい」と回答した児童生徒ほど、卒業後も運動やスポーツをしようという意欲をもっている割合が高い。

VI 考察

1 本市の傾向

＜体力・運動能力調査＞ (※全国平均を50として比較)

◎総合評価「A」の児童生徒の割合は、小・中学校の男女共に全国や県を上回っている。総合評価「D、E」の下位層の児童生徒の割合は、小・中学校の男女共に全国や県より少ない。

○体力・運動能力において小・中学校の男子は、全ての項目で全国や県を上回っている。小学校の女子は、全ての項目で国の平均を上回っている。中学校の女子は、全ての項目で国の平均と同程度または上回っている。

＜体格調査＞

○小・中学校の男女共に、身長と体重のT得点（全国平均値に対する相対的位置を示す）は全国を上回っている。

▲小学校男子は、肥満傾向出現率において、「正常」が全国より5.5割下回っており、その分だけ「肥満傾向」の児童生徒が全国より多くなっている。

＜質問紙調査＞

○運動やスポーツが好き、体育の授業が楽しいと感じている児童生徒の体力合計点が高く、全国平均を上回る傾向がある。

○体育の授業が楽しいと感じている児童生徒は、卒業後も運動やスポーツをしようという意欲をもっている。

▲児童生徒が授業で「できなかったことができるようになる」きっかけとなっている事柄について、児童生徒の意識と学校の取組内容にずれが見られる。

2 改善に向けて《瘦身や肥満傾向改善のために》

◇授業における運動量の確保と意欲付けを図る取組の実施

○運動種目に応じた総運動量（準備運動、スキル運動、本運動）を考慮した授業及び単元計画を作成し実践する。

○運動の組み合わせの工夫、有効な用具の使用、場の工夫、ICTの有効活用等により、楽しくスキルを身に付けたり高めたりする授業を構築する。

◇食習慣・生活習慣確立のための継続的な取組の実施

○食育や健康に関する授業などを通して生活の見直し、正しい食習慣や基本的な生活習慣の確立を図る取組を推進する。

○家庭や地域と連携して、子どもの正しい食習慣や生活習慣の確立を図る。

◇運動やスポーツに対する意欲を高める取組の実施

○体育的行事や業間、放課後を活用した継続的な運動等を全校体制で取り組んだり、地域の体育的行事に全校で積極的に参加したりするなど、家庭や地域と連携して、生涯にわたって運動やスポーツをしようとする意欲を高める。